

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500393		
法人名	有限会社スマイル・タム		
事業所名	グループホーム赤い屋根の家 2F花		
所在地	岡山県笠岡市吉浜2485-5		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 5 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒に楽しい笑顔 ゆっくりのんびりと出来ることは自分らしく頑張ろう」という、生活に密着した理念を掲げ「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」という手のひらのぬくもりを感じられる介護に取り組んでいる。入居者と家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に出会った人として「あなたに会えてよかった」と思えるような介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が生き生きと楽しく介護に取り組んでおり、職員間の会話や笑顔も多く、とてもアットホームな事業所である。また、食事介助や歩行車の移乗など、個々の残存能力を把握しサポートに徹することで、利用者も落ち着いて穏やかに生活できている。優れている点として挙げられるのは、以下の四点である。まず、利用者の状態(様子)を毎月写真と手紙で家族に報告すると共に、何かあればその都度、的確に家族へ報告することで、信頼・信用を築いていること。二つめに、職員が自主的に年間研修計画を立て、実践していること。三つめに、事業所独自のアンケートを活用して、家族から意見等を聞き取り、ケアに反映していること。四つめに、物価高騰の中、上手に工夫しながら美味しい手作り料理を提供していることがある。工夫点は、各ユニットに「よかった探しノート」を配置し、職員同士鼓舞し合いながら、チームワーク良くケアに取り組んでいることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂やトイレ等、目に入りやすい場所に理念を掲示し意識向上を図っている。本人のペースに合わせた待つ介護に努めている。申し送りの時スタッフ全員で毎朝唱和している。	玄関、相談室、スタッフトイレに理念を掲示し、周知を図ると共に、各階で申し送りの後に唱和している。また、毎月1回、各ユニットのスタッフ会議の中で理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを通して地域との交流や保育園との交流が出来ている。(コロナ禍の為、地域や保育園の交流は出来ていない。)	コロナ禍以前は、町内の祭りで神輿が来て、子供達と交流していた。中学生の職場体験やボランティアの来訪は、様子を見ている状況である。町内会主催の掃除や草刈りに職員が出たり、事業所で行う避難訓練に地域の人が参加したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生のいきいきチャレンジや高校生のインターンシップを毎年受け入れている。大学生のボランティアの受け入れも行った。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事や自主研修の報告をして地域の方々との意見を聞かせていただきサービス向上に活かしている。(コロナ禍の為、笠岡市に自粛の報告を提出し、職員のみで資料配布し、各部署で行なっている)8/29再開。9/22夜間想定した消防避難訓練を実施した。	役所や町内、家族会の人に参加して、今年の8月から通常通り、2ヶ月に一回会議を開いている。会議の後、避難訓練を行っており、「はしご車が入ってこられるのか？外部の人が助けに来てケガをした時の処置(保険)は？」など、活発な意見交換が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者の人とは些細な事でも相談ののっもらっている。何でも話し合える関係作りをしている。	代表者が窓口となり、何かあった時には直ぐに連絡している。苦情相談に乗ってもらった経験もある。研修案内がメールやファックスで来るので、積極的に参加している。コロナ感染時、市や保健所へ定期的に連絡していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度、又、年間研修計画でも身体拘束を取り上げ、職員全体で身体拘束廃止の取り組みを行っている。高齢者虐待防止研修会等参加して、意識を高めている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開いている。また、担当職員が講師となり、年1回身体拘束に関する研修を行っている。市主催の研修会に参加した時は、研修記録を事業所内で回覧し、情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岡山県高齢者虐待防止研修会に参加し、事例発表した。特に、スピーチロックの知識をスタッフ全体で深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	笠岡市/里庄町市民・町民後見人養成課程の実習生を受け入れこれから益々勉強していきたい。井笠いきいきネット専門職の勉強会にも参加している。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回以上「スマイルメール」という新聞を発行し、ご家族にも送付している。又、毎月の請求書の中に一人ひとりの1ヶ月の様子、写真を入れて知らせている。玄関前・各フロアに意見箱を設置しているんな意見を取り入れようとしている。	利用者は普段の日常会話から、家族は事業所独自のアンケートや意見箱を利用して、意見を聴取している。出された意見は、食事内容や買い物外出、請求書の作成者変更などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同スタッフ会議を2ヶ月に1回行い、親睦会も年2回位設けて職員の意見や提案を聞き入れている。(現在はコロナ禍の為、2ヶ月に1回各フロアの担当者が、年間研修計画に沿った資料を作成して、それぞれのフロアに配布している。)	毎月行うスタッフ会議や個別面談(年2回)、日常会話を通じて、職員から意見や提案を聞き取っている。出された意見や提案は、備品(乾燥機や高さ調整できる食卓テーブル等)の購入や有休消化などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各フロアのスタッフ会議に同席して、スタッフの意見・希望を聞き入れている。スタッフから退職金制度・年間休日・基本給のup等の要望があり前向きに検討し、実行されている。勤続表彰者を5年・10年・15年・20年と節目の年に表彰し、金一封を付与されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は年2回個人面談を行い、個々に話す機会を作っている。その他にもスタッフの意見・想いを常に聞けるよう努めている。又、自分たちで年間研修計画を立てて研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市地域密着拠点推進会議に出席したり認知症多職種研修会・認知症サポーター養成講座・認知症キャラバンメイト養成講座に参加して他の施設の方と交流している。(コロナ禍で出来ていない。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず利用者の方が私達を信頼して下さるよう、ゆっくりスキンシップを取りながら、話を傾聴するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・入居日に時間を取り、ご家族との話し合いに努めている。又、電話でのやりとりも頻繁に行なうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話を真剣に傾聴して、ご家族の要望に応えられる支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・新聞紙たたみ、食器洗いを率先して下さる方には一緒に寄り添い食器洗いをしてもらう等、その人が出来ることを見つけ一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の現状報告を常に行なって、ご家族の方をまきこんで一緒に考え、行動とれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・本人の意向のもと、出来るだけ支援している。(コロナ禍の為、ZOOMでのオンライン面会を行っていたが、8月より相談室での面会を行っている。)	家族や親戚が面会に来た際、利用者の様子を詳しく伝えている。家族とドライブに出かけたり、実家に戻ったりする利用者に対しては、個々の行動を尊重している。また、年賀状のサポートや電話の取次ぎも行っている。コロナ禍前は一階のデイサービスと自由に交流していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に発語練習をしたり歌ったりしている。利用者の方同士で塗り絵や手芸をし、教え合ったりしている。またお互いに交流が持てるよう間に入り、会話が繋がるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお見舞いに行ったり季節事のハガキを出すなど努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	赤い屋根の家独自のアンケートや様子観察から入居者一人ひとりの思いを理解しコミュニケーションを大切に穏やかな対応をしている。不穏の方にはしっかり寄り添い関わりを持って意向に沿えるよう言葉掛けに努めている。	入居前のアンケートや日常生活の中で、利用者の暮らしの希望等を把握している。把握が難しい時は、現在のアセスメントを確認したり、家族が不安がらない様に聞いたり、体をしっかり観察したりして、本人本位となるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後において、ご家族の方と時間の許す限りゆっくり話し合い、その人の生活歴を聞くよう努めている。アセスメントに重点をおき、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切に個々の対応をしている。スタッフの休み明けの日には記録や他スタッフから現状報告を聞き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の入居者に合わせた支援を皆で考え、現状に即した介護計画を作成している。半年ごとに介護計画の見直しを行う事で利用者の現状を把握するように努めている。	職員全員で作成したケアプランを基にスタッフ会議を行い、個々の現状に沿った介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月に一回、ケアマネジャーが行っている。入・退院時や利用者の状態が変化した時はその都度、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を几帳面に記録し、又スタッフ同志の注意すべき事もノートに記録し、全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対しては往診もしてもらえ、安心を得ている。	かかりつけ医の継続は可能であり、家族対応としている。月2回、協力医が訪問しており、24時間体制で適切な医療を提供している。日中は看護師がおり、相談したり、アドバイスをもらったりしている。また、利用者・家族・職員に安心感をもたらしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に一人ひとりの看護記録を作成してもらっている。その記録を介護員と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に行き担当の先生と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの意向を確認している。実感のない時から考えてもらい、ご本人とご家族の意思に出来るだけ添えるよう最善を尽くしている。	入居時、指針等を説明し、同意書にサインをもらっている。看取りになった場合、主治医が家族に説明し、方針等を共有している。年1回、事業所内で看取りの研修を行っており、利用者・家族の希望に添えるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応・今後の対策を検討し、問題発生防止に繋げていこうとしている。毎年、年1回消防の方から救命救急講座を受けている。(現在はコロナ禍で受けれていない)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方や市の方も一緒に、夜間介護者1人を想定しての訓練・消火器の使い方を、地域の方と一緒に連携を取り行った。地域の方と一緒に実施することで繋がりを大切にしている。(現在はコロナ禍の為、消防の方にきていただきスタッフのみで消火器の使い方と避難訓練の指導を計画している)又、運営推進会議再開にて3年半ぶりに夜間介護者1人を想定しての訓練を地域住民の方や市の方と一緒にいった。	自主訓練(年2回)及び、夜間想定での避難訓練を行っており、利用者も参加している。夜間想定には地域の人も参加している。また、救命救急や水消火器を使用した訓練も行っている。訓練の様子を消防署の方に見てもらい、助言やアドバイスをもらっている。備蓄は米や水などがある。	災害訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いを理解し、排泄時の声かけはプライバシーを損ねないような気配りを持った声かけをしている。否定はせず傾聴行いその方にあった言葉掛けをするよう心掛けている。	入浴時やトイレ支援時は必ずドアを閉める、大きな声で対応しない、視線を合わせて会話するなど、利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。年1回、事業所内で起きた事例を基に接遇研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来る様に、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、入居者の言葉や態度での訴えを見落とさず受け止めていく様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食場面ではゆっくりと味わって食べている方、早く済ませてソファーに移動する方、食事介助を必要とされる方などおられ、職員は常に入居者優先を心にとめ、入居者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがその人らしい髪型に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のトレイ拭き・テーブル拭きを、スタッフと一緒に楽しんでいる。	職員がメニューを考え、3食手作りしている。ワンプレートやバイキング形式にしたり、おやつを利用者と一緒に作ったりして、食事が楽しくなる様に工夫している。また、旬のメニューや行事食も豊富であり、バランスの取れた美味しい食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を手作りしている。嚥下状態に合わせて形態を工夫し食べやすくしている。水分補給には気をつけている。飲み込みの悪い方にはお茶ゼリーを作り水分の確保に努めている。味の変化を好まれる方には水ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎夕食後流水で洗い、週2回は洗浄剤を使用し清潔を保っている。月に1回は歯科研習をして入れ歯の手入れの仕方、口腔ケアを学習している。歯に異常がある方においては月2回訪問歯科治療に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間のチェックをして、入居者一人ひとりの状況を把握し、誘導や動作の援助を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、昼間は基本、トイレ誘導している。夜間は、ぐっすり寝て欲しいのでオムツを使用したり、トイレ誘導したりして個々に対応している。また、ペットシーツの活用など、なるべく利用者や家族に負担を掛けず、無駄にならない様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも記録して一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の人には水分補給したり乳製品や食物繊維を食べていただき運動も心掛けている。Dr指示により3日目には必ず排便があるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で健康状態を確認し、本人の意思を確認してから入浴の可否を見極めている。便失禁があればシャワー浴をその都度行っている。個々の残存機能を生かし出来ることはしていただいている。	週2回の入浴を基本とし、体調を見ながら足浴や清拭を取り入れている。浴槽がまたげない利用者はシャワー浴で清潔を保っている。バスクリンや季節湯(柚子や菖蒲など)で楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝・昼寝を日程としている利用者の方には、居室やソファー等、希望の場所で休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一日分を個人別に分けてケースに保管している。担当職員が一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。又、薬の変更や新しく投与する際には、申し送り帳や薬袋等に記入し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等声掛けし、一緒に取り組んでいる。又、縫物の好きな人には刺し子を、折り紙の好きな人には綺麗な折り紙を、計算の好きな人には計算問題を、塗り絵の好きな人には色鉛筆を、将棋好きの人同士で将棋を指す等、個々の楽しみが速やかに行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時候のいい時は池の周りの散歩、近くの花畑へのドライブを他に人に会わないようにしてコロナ禍でも楽しんでいる。この夏はあまりの猛暑の為外出は控えた。	季節や天候に合わせて事業所周辺を散歩したり、車で紅葉や桜、干拓のコスモス等を見に行ったりして、ストレス解消を図っている。また、家族と一緒にかかりつけ医に行ったり、実家に戻ったりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもと、お金をもっていないと落ち着かないという人には、お金を代表が預かっていると伝えて安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人要望のもと家族にTELLたり手紙のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の壁面に季節の飾りを手作りして飾っている。入居者さんと一緒に季節の飾りを作る事もある。それを共用部分の壁面に飾っている。窓からの見晴らしで四季を感じていただいている。	広いホールの壁面には利用者と一緒に作成した季節の飾りがあり、落ち着いた雰囲気がある。また、綺麗に整理整頓されており、清潔感がある。利用者の相性や状態に合わせて、ソファやテーブルの配置を変えたり、テーブルの高さを調整したりして、ゆったりと寛げる空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングにソファを置き、その時の気分で自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人手作りの物を飾ったり、ご自分の家から持って来られた思い出の物を置いたりするなどして、各居室で思い思いのお部屋の空間となるように配慮している。TVを見たい方は居室に設置して、のんびりと過ごしていただいている。	馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れた布団や毛布、趣味の作業台などが持ち込まれており、個々に居心地良く、暮らしやすい空間となっている。室内で新聞を読んだり、テレビを観たり、新聞広告で籠を作ったりして、気ままに楽しく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口には写真と名前を掲げている。トイレは「トイレ」と書いて、風呂は「浴室」と書いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500393		
法人名	有限会社スマイル・タム		
事業所名	グループホーム赤い屋根の家 3F夢		
所在地	岡山県笠岡市吉浜2485-5		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 10 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370500393-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ブランチピース		
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんな一緒に楽しい笑顔 ゆっくりのんびりと出来ることは自分らしく頑張ろう」という、生活に密着した理念を掲げ「悲しい時は一緒に悲しみ、嬉しい時には共に喜び、不安や寂しい時には傍に寄り添う」という手のひらのぬくもりを感じられる介護に取り組んでいる。入居者と家族の良きパートナーとなれるよう努力し、人生の最後に出会った人として「あなたに会えてよかった」と思えるような介護を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が生き生きと楽しく介護に取り組んでおり、職員間の会話や笑顔も多く、とてもアットホームな事業所である。また、食事介助や歩行車の移乗など、個々の残存能力を把握しサポートに徹することで、利用者も落ち着いて穏やかに生活できている。優れている点として挙げられるのは、以下の四点である。まず、利用者の状態(様子)を毎月写真と手紙で家族に報告すると共に、何かあればその都度、的確に家族へ報告することで、信頼・信用を築いていること。二つめに、職員が自主的に年間研修計画を立て、実践していること。三つめに、事業所独自のアンケートを活用して、家族から意見等を聞き取り、ケアに反映していること。四つめに、物価高騰の中、上手に工夫しながら美味しい手作り料理を提供していることがある。工夫点は、各ユニットに「よかった探しノート」を配置し、職員同士鼓舞し合いながら、チームワーク良くケアに取り組んでいることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂やトイレ等、目に入りやすい場所に理念を掲示し意識向上を図っている。本人のペースに合わせた待つ介護に努めている。申し送りの時スタッフ全員で毎朝唱和している。	玄関、相談室、スタッフトイレに理念を掲示し、周知を図ると共に、各階で申し送りの後に唱和している。また、毎月1回、各ユニットのスタッフ会議の中で理念を振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設のデイサービスを通して地域との交流や保育園との交流が出来ている。(コロナ禍の為、地域や保育園の交流は出来ていない。)	コロナ禍以前は、町内の祭りで神輿が来て、子供達と交流していた。中学生の職場体験やボランティアの来訪は、様子を見ている状況である。町内会主催の掃除や草刈りに職員が出たり、事業所で行う避難訓練に地域の人が参加したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生のいきいきチャレンジや高校生のインターンシップを毎年受け入れている。大学生のボランティアの受け入れも行った。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事や自主研修の報告をして地域の方々との意見を聞かせていただきサービス向上に活かしている。(コロナ禍の為、笠岡市に自肅の報告を提出し、職員のみで資料配布し、各部所で行なっている)8/29再開。9/22夜間想定した消防避難訓練を実施した。	役所や町内、家族会の人に参加して、今年の8月から通常通り、2ヶ月に一回会議を開いている。会議の後、避難訓練を行っており、「はしご車が入ってこられるのか？外部の人が助けに来てケガをした時の処置(保険)は？」など、活発な意見交換が交わされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者の人とは些細な事でも相談ののってもらっている。何でも話し合える関係作りをしている。	代表者が窓口となり、何かあった時には直ぐに連絡している。苦情相談に乗ってもらった経験もある。研修案内がメールやファックスで来るので、積極的に参加している。コロナ感染時、市や保健所へ定期的に連絡していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1度、又、年間研修計画でも身体拘束を取り上げ、職員全体で身体拘束廃止の取り組みを行っている。高齢者虐待防止研修会等参加して、意識を高めている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開いている。また、担当職員が講師となり、年1回身体拘束に関する研修を行っている。市主催の研修会に参加した時は、研修記録を事業所内で回覧し、情報共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岡山県高齢者虐待防止研修会に参加し、事例発表した。特に、スピーチロックの知識をスタッフ全体で深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	笠岡市/里庄町市民・町民後見人養成課程の実習生を受け入れこれから益々勉強していきたい。井笠いきいきネット専門職の勉強会にも参加している。(現在はコロナ禍の為、中止している)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回以上「スマイルメール」という新聞を発行し、ご家族にも送付している。又、毎月の請求書の中に一人ひとりの1ヶ月の様子、写真を入れて知らせている。玄関前・各フロアに意見箱を設置しているような意見を取り入れようとしている。	利用者は普段の日常会話から、家族は事業所独自のアンケートや意見箱を利用して、意見を聴取している。出された意見は、食事内容や買い物外出、請求書の作成者変更などに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同スタッフ会議を2ヶ月に1回行い、親睦会も年2回位設けて職員の意見や提案を聞き入れている。(現在はコロナ禍の為、2ヶ月に1回各フロアの担当者が、年間研修計画に沿った資料を作成して、それぞれのフロアに配布している。)	毎月行うスタッフ会議や個別面談(年2回)、日常会話を通じて、職員から意見や提案を聞き取っている。出された意見や提案は、備品(乾燥機や高さ調整できる食卓テーブル等)の購入や有休消化などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各フロアのスタッフ会議に同席して、スタッフの意見・希望を聞き入れている。スタッフから退職金制度・年間休日・基本給のup等の要望があり前向きに検討し、実行されている。勤続表彰者を5年・10年・15年・20年と節目の年に表彰し、金一封を付与されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は年2回個人面談を行い、個々に話す機会を作っている。その他にもスタッフの意見・想いを常に聞けるよう努めている。又、自分たちで年間研修計画を立てて研修の取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	笠岡市地域密着拠点推進会議に出席したり認知症多職種研修会・認知症サポーター養成講座・認知症キャラバンメイト養成講座に参加して他の施設の方と交流している。(コロナ禍で出来ていない。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず利用者の方が私達を信頼して下さるよう、ゆっくりスキンシップを取りながら、話を傾聴するように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時・入居日に時間を取り、ご家族との話し合いに努めている。又、電話でのやりとりも頻繁に行なうようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話を真剣に傾聴して、ご家族の要望に応えられる支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・新聞紙たたみ、食器洗いを率先して下さる方には一緒に寄り添い食器洗いをしてもらう等、その人が出来ることを見つけ一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方の現状報告を常に行なって、ご家族の方をまきこんで一緒に考え、行動とれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・本人の意向のもと、出来るだけ支援している。(コロナ禍の為、ZOOMでのオンライン面会を行っていたが、8月より相談室での面会を行っている。)	家族や親戚が面会に来た際、利用者の様子を詳しく伝えている。家族とドライブに出かけたり、実家に戻ったりする利用者に対しては、個々の行動を尊重している。また、年賀状のサポートや電話の取次ぎも行っている。コロナ禍前は一階のデイサービスと自由に交流していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に発語練習をしたり歌ったりしている。利用者の方同士で塗り絵や手芸をし、教え合ったりしている。またお互いに交流が持てるよう間に入り、会話が繋がるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もお見舞いに行ったり季節事のハガキを出すなど努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	赤い屋根の家独自のアンケートや様子観察から入居者一人ひとりの思いを理解しコミュニケーションを大切に穏やかな対応をしている。不穏の方にはしっかり寄り添い関わりを持って意向に沿えるよう言葉掛けに努めている。	入居前のアンケートや日常生活の中で、利用者の暮らしの希望等を把握している。把握が難しい時は、現在のアセスメントを確認したり、家族が不安がらない様に聞いたり、体をしっかり観察したりして、本人本位となるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居後において、ご家族の方と時間の許す限りゆっくり話し合い、その人の生活歴を聞くよう努めている。アセスメントに重点をおき、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いを大切に個々の対応をしている。スタッフの休み明けの日には記録や他スタッフから現状報告を聞き、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の入居者に合わせた支援を皆で考え、現状に即した介護計画を作成している。半年ごとに介護計画の見直しを行う事で利用者の現状を把握するように努めている。	職員全員で作成したケアプランを基にスタッフ会議を行い、個々の現状に沿った介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月に一回、ケアマネジャーが行っている。入・退院時や利用者の状態が変化した時はその都度、見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を几帳面に記録し、又スタッフ同志の注意すべき事もノートに記録し、全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院との密接な関係があり、いつでも相談に応じてもらえる。急変に対しては往診もしてもらえ、安心を得ている。	かかりつけ医の継続は可能であり、家族対応としている。月2回、協力医が訪問しており、24時間体制で適切な医療を提供している。日中は看護師がおり、相談したり、アドバイスをもらったりしている。また、利用者・家族・職員に安心感をもたらしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に一人ひとりの看護記録を作成してもらっている。その記録を介護員と共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に行き担当の先生と連携を取るようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの意向を確認している。実感のない時から考えてもらい、ご本人とご家族の意思に出来るだけ添えるよう最善を尽くしている。	入居時、指針等を説明し、同意書にサインをもらっている。看取りになった場合、主治医が家族に説明し、方針等を共有している。年1回、事業所内で看取りの研修を行っており、利用者・家族の希望に添えるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットを積極的に書き、原因と対応・今後の対策を検討し、問題発生防止に繋げていこうとしている。毎年、年1回消防の方から救命救急講座を受けている。(現在はコロナ禍で受けていない)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方や市の方も一緒に、夜間介護者1人を想定しての訓練・消火器の使い方を、地域の方と一緒に連携を取り、行った。地域の方と一緒に実施することで繋がりを大切にしている。(現在はコロナ禍の為、消防の方にきていただきスタッフのみで消火器の使い方と避難訓練の指導を計画している)又、運営推進会議再開にて3年半ぶりに夜間介護者1人を想定しての訓練を地域住民の方や市の方と一緒にいった。	自主訓練(年2回)及び、夜間想定での避難訓練を行っており、利用者も参加している。夜間想定には地域の人も参加している。また、救命救急や水消火器を使用した訓練も行っている。訓練の様子を消防署の方に見てもらい、助言やアドバイスをもらっている。備蓄は米や水などがある。	災害訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの思いを理解し、排泄時の声かけはプライバシーを損ねないような気配りを持った声かけをしている。否定はせず傾聴行いその方にあった言葉掛けするよう心掛けている。	入浴時やトイレ支援時は必ずドアを閉める、大きな声で対応しない、視線を合わせて会話するなど、利用者の尊厳を守り、プライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。年1回、事業所内で起きた事例を基に接遇研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者が自由に思いを伝えたり感情を表したり出来る様に、一人ひとりの特徴やペースに合わせて優しく穏やかに接し、入居者の言葉や態度での訴えを見落とさず受け止めていく様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食場面ではゆっくりと味わって食べている方、早く済ませてソファーに移動する方、食事介助を必要とされる方などおられ、職員は常に入居者優先を心にとめ、入居者のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフがその人らしい髪型に整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のトレイ拭き・テーブル拭きを、スタッフと一緒に楽しんでいる。	職員がメニューを考え、3食手作りしている。ワンプレートやバイキング形式にしたり、おやつを利用者と一緒につったりして、食事が楽しくなる様に工夫している。また、旬のメニューや行事食も豊富であり、バランスの取れた美味しい食事が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を手作りしている。嚥下状態に合わせて形態を工夫し食べやすくしている。水分補給には気をつけている。飲み込みの悪い方にはお茶ゼリーを作り水分の確保に努めている。味の変化を好まれる方には水ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後に口腔ケアを行っている。義歯は毎夕食後流水で洗い、週2回は洗浄剤を使用し清潔を保っている。月に1回は歯科研習をして入れ歯の手入れの仕方、口腔ケアを学習している。歯に異常がある方においては月2回訪問歯科治療に来ていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間のチェックをして、入居者一人ひとりの状況を把握し、誘導や動作の援助を行い、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、昼間は基本、トイレ誘導している。夜間は、ぐっすり寝て欲しいのでオムツを使用したり、トイレ誘導したりして個々に対応している。また、ペットシーツの活用など、なるべく利用者や家族に負担を掛けず、無駄にならない様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも記録して一人ひとりの状態の把握に努めている。便秘の人には水分補給したり乳製品や食物繊維を食べていただき運動も心掛けている。Dr指示により3日目には必ず排便があるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック等で健康状態を確認し、本人の意思を確認してから入浴の可否を見極めている。便失禁があればシャワー浴をその都度行っている。個々の残存機能を生かし出来ることはしていただいている。	週2回の入浴を基本とし、体調を見ながら足浴や清拭を取り入れている。浴槽がまたげない利用者はシャワー浴で清潔を保っている。バスクリンや季節湯(柚子や菖蒲など)で楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝寝・昼寝を日程としている利用者の方には、居室やソファ等、希望の場所で休憩して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は一日分を個人別に分けてケースに保管している。担当職員が一人ひとりに手渡し、飲み込みを確認している。又、薬の変更や新しく投与する際には、申し送り帳や薬袋等に記入し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ等声掛けし、一緒に取り組んでいる。又、編み物の好きな人には毛糸を、折り紙の好きな人には綺麗な折り紙を、塗り絵の好きな人には色鉛筆等を、個々の楽しみが速やかに行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物を楽しむために、一緒に外出をしている。(現在はコロナ禍の為、出来ない)時候のいい時は池の周りの散歩、近くの花畑へのドライブを他に人に会わないようにしてコロナ禍でも楽しんでいる。この夏はあまりの猛暑の為外出は控えた。	季節や天候に合わせて事業所周辺を散歩したり、車で紅葉や桜、干拓のコスモス等を見に行ったりして、ストレス解消を図っている。また、家族と一緒にかかりつけ医に行ったり、実家に戻ったりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いのもと、お金をもっていないと落ち着かないという人には、お金を代表が預かっていると伝えて安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人要望のもと家族にTELLたり手紙のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の壁面に季節の飾りを手作りして飾っている。入居者さんと一緒に季節の飾りを作る事もある。それを共用部分の壁面に飾っている。窓からの見晴らしで四季を感じていただいている。	広いホールの壁面には利用者と一緒に作成した季節の飾りがあり、落ち着いた雰囲気がある。また、綺麗に整理整頓されており、清潔感がある。利用者の相性や状態に合わせて、ソファやテーブルの配置を変えたり、テーブルの高さを調整したりして、ゆったりと寛げる空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングにソファを置き、その時の気分で自由に座って過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人手作りの物を飾ったり、ご自分の家から持って来られた思い出の物を置いたりするなどして、各居室で思い思いのお部屋の空間となるように配慮している。TVを見たい方は居室に設置して、のんびりと過ごしていただいている。	馴染みの家族写真や仏壇、使い慣れた布団や毛布、趣味の作業台などが持ち込まれており、個々に居心地良く、暮らしやすい空間となっている。室内で新聞を読んだり、テレビを観たり、新聞広告で籠を作ったりして、気ままに楽しく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口には写真と名前を掲げている。トイレは「トイレ」と書いて、風呂は「浴室」と書いて「ゆ」ののれんをかけている。		